

令和4年度

杏林大学データサイエンス標準教育プログラム

(応用基礎)

に係る自己点検・評価書

令和5年度4月

杏林大学 データサイエンス教育委員会

1. 点検・評価の実施

杏林大学データサイエンス教育委員会が主体となり、「杏林大学データサイエンス標準教育プログラム（応用基礎）」に関する認定科目について点検・評価を行った。また、本教育プログラムの改善に関する事柄についても点検・評価を行った。

2. 点検・評価の対象

本教育プログラムは、基本となる「認定科目」と、基礎および発展的な「推奨科目」で構成されている。認定科目は、データサイエンス、データエンジニアリング、および AI に関するエッセンスを学び、この科目の単位取得が教育プログラムの修了要件となる。推奨科目は、データサイエンスを用いた課題解決のための実践的スキルを学ぶ科目を配置している。

そこで、認定科目および推奨科目について、おもに授業評価アンケート結果から授業満足度を評価した。

3. 点検・評価の根拠資料

- ・令和 4 年度 総合政策学部 シラバス（該当科目）
- ・令和 4 年度 総合政策学部 履修者一覧（該当科目）
- ・令和 4 年度 前期 授業評価アンケート調査（2022）
- ・令和 4 年度 後期 授業評価アンケート調査（2022）

4. 評価結果の判定

評価結果に基づき、3 段階の評価レベルを設け判定した。

【評価レベル】

S：評価の観点において、十分に基準を満足している。

A：評価の観点において、基準を満足している。

B：評価の観点において、改善の必要がある。

(1) 認定科目および推奨科目の点検・評価		
点検項目	点検結果・評価結果	評価レベル
授業内容の理解度	<p>【点検結果】 本学では、全ての授業科目を対象とした「授業評価アンケート」を実施している。このアンケート結果（項目：授業の満足度）では、対象科目について概ね良好な満足度であることが報告されている。これらと下記の学修成果等を総合して、概ね良好な理解度であると推察している。</p> <p>【評価結果】 授業の理解度は概ね良好である。</p>	A
学修の成果	<p>【点検結果】 対象科目の多くが、履修した学生数と単位を取得した学生数に差が無いことから、シラバスに記載した内容を学修できたと認められる。</p> <p>【評価結果】 適切な学修成果が得られている。</p>	A

<p>後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>【点検結果】 本学では、全ての授業科目を対象とした「授業評価アンケート」を実施している。このアンケート結果（項目：授業の満足度）では、対象科目について概ね良好な満足度であることが報告されている。以上のことから、間接的ではあるが、推奨度についても良好な評価が得られていると推測される。しかしながら、具体的なアンケート項目として情報を得られていないため、令和5年度から、新たに「後輩等他の学生への推奨度を問う」アンケートを行う予定である。</p> <p>【評価結果】 間接的ではあるが推奨度について良好であると推察できる。次年度以降の結果を注視したい。</p>	<p>A</p>
<p>(2) 教育プログラムの点検・評価</p>		
<p>点検項目</p>	<p>点検結果・評価結果</p>	<p>評価レベル</p>
<p>教育プログラムの履修・修得状況</p>	<p>【点検結果】 令和4年度（2022年度）に開設された杏林大学データサイエンス標準教育プログラム（応用基礎）における対象科目履修者数と本プログラムの修了者数は、 2022年度 履修者数 246名 修了者数 0名(2年時科目未開講のため) である。</p> <p>【評価結果】 初年度としては満足できる。次年度以降の履修者増に期待したい。</p>	<p>A</p>

<p>学部の特性に応じた履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>【点検結果】 データデザインプログラム（以降 DDP）は、急速に進むデジタル化社会に対応できる人材の養成を目的とし、データの意味を創り出す「データ・デザイン」という考え方にに基づき、データから新しいビジネスを発見し創造する力や、データを用いて課題を解決する力を身につけられる科目構成となっている。この中で、特にデータサイエンスに関連する科目で構成された「杏林大学データサイエンス標準教育プログラム（応用基礎）」を設けている。このことから、ビジネス分野への適応に関する明確なビジョンを示すことが、履修者数の向上に不可欠であると考えられる。具体的には、初年次のガイダンスをはじめ、「ICT ビジネス論」や「データデザイナー概論」等で積極的な展開が望まれる。合わせて、「データサイエンス基礎」、「データサイエンス応用」においても上記コンセプトに基づく授業展開を求めたい。</p> <p>【評価結果】 初年度としては満足できる。次年度以降も履修者増に期待したい。</p>	<p>A</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>【点検結果】 現時点では教育プログラムを修了した卒業生は輩出していないが、卒業生の進路状況等の把握は、本学のキャリア関係を扱う部署（キャリアサポートセンター）が担っており、本プログラムについても当センターで追跡調査を行う予定である。具体的には、活躍状況や企業等の評価について、キャリアサポートセンターが毎年度実施している「就職先企業アンケート調査」を利用して、教育プログラム修了生の情報を収集し、分析、評価する予定である。</p> <p>【評価結果】 卒業生が輩出されていないため、評価が難しい。</p>	<p>B</p>

<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>【点検結果】 本学の外部評価委員会等を利用し、産業界や教育界等から意見を得る予定である。</p> <p>【評価結果】 具体的な方策が乏しい。早期に改善が求められる。</p>	<p>B</p>
<p>リテラシーレベルの教育を補完的・発展的に学び、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的能力を育成するために必要な知識及び技術を偏りなく体系的に修得させること</p>	<p>【点検結果】 学生が関心と知識をもっている専門教育と関連づけ、リテラシーレベルのカリキュラムで未学修の数理・データサイエンス・AIの活用事例紹介、AIの基本原理の解説、およびAI利活用のための模擬データ分析などを行っている。</p> <p>【評価結果】 授業担当者間でコンテンツ等を共有するしくみがあるとより効果的である。</p>	<p>A</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「学生の習熟度や専門性を踏まえた」授業とすること</p>	<p>【点検結果】 モデルカリキュラム応用基礎レベルの教授内容について、科目担当教員による履修者に応じた補足説明、学生が関心と知識をもっている各学科の専門教育と関連づけた事例紹介、適応の将来性と想定されるメリットなどの解説を行っている。</p> <p>【評価結果】 定期的な教材の改善に併せて、最新の情報を提供できる体制があると良い。</p>	<p>A</p>